

No.191	令和7年度 農林水産物・食品の輸出促進のうち輸出拡大に向けたニーズや付加価値の高い農産物の栽培・加工技術等の開発委託事業	
機関名	農林水産省	
募集締切 (公募機関)	2026年3月18日(水) 17時	
本部研推締切日	研究推進部 事前連絡締切日	2026年3月4日(水)
	原議書提出締切日	2026年3月11日(水)
応募方法	e-R a dによる提出 ※本公募は事務局において事前了解の手続きを行いますが、 e-R a dへの応募情報の入力はいは各申請者が行ってください	
所属研究機関の承認(e-Rad)	必要	
研究推進部 事前了解 (原議書の回付)	必要	
概要	<p>●事業概要 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略（令和7年5月）において令和 12 年の品目別輸出目標が設定されたところ、更なる輸出ニーズはあるものの、ボトルネックとなる技術的課題が存在する輸出重点品目について、早急に研究を開始し、海外マーケットを獲得していく必要があります。</p> <p>このため、海外におけるニーズの高い輸出重点品目であるかんしょ、イチゴ、茶について、①輸出可能な生産量を確保するための効率的生産体系、②輸出先国の残留農薬基準に対応した病害虫防除体系、③長距離輸送に対応した長期品質保持体系、④輸出先国のニーズに対応した有機など高付加価値化に関する生産・加工技術の開発に取り組みます。</p> <p>●公募研究課題の研究開発内容 【個別課題①】 かんしょの輸出拡大にむけた効率的生産体系と長期品質保持体系の確立</p> <p>かんしょにおいて、効率的苗生産や収穫の省力化技術等により、生産及び出荷に要する労働時間を削減できる効率的生産体系を構築します。また、輸送時の腐敗等の品質低下を防止する収穫体系や収穫物の調整、処理技術等を開発し、長距離輸送に対応した長期品質保持技術の開発に取り組みます。</p> <p>【個別課題②】 高品質な日本産イチゴの輸出拡大に向けた高付加価値化・効率的生産技術及び総合防除体系の開発</p> <p>イチゴにおいて、高品質な果実の安定生産のために、果実の糖度を予測する技術の開発、高温や低温環境での生育や収量を予測する技術の開発、東南アジア等の輸出先国の残留農薬基準に対応した総合防除体系の確立に取り組みます。</p> <p>【個別課題③】 輸出向け茶生産のための有機栽培を中心とした総合防除体系及び高付加価値化流通・加工技術の開発</p> <p>茶において、特にニーズの高い抹茶の有機栽培を中心に、欧米等の輸出先国の残留農薬基準に対応した総合防除体系の確立、輸出向けのニーズに対応する茶の低コスト生産・加工・保管技術、及び欧米等の輸出先国の規制・ニーズに対応する輸送・保管条件の改良・実証に取り組みます。</p>	

※ 貴部局にて申請がある場合は、事前連絡締切日までに所定の《事前連絡様式》にて、研究代表者名・研究分担者名等の連絡をお願い致します。

※応募に関するお問い合わせは各部局の担当者までお願いします。